

話題を提供してください！

伊奈庁舎政策秘書課 ☎ 58-2111 (内線1202~1203)

※紙面の都合上、投稿いただいた情報が必ずしも掲載できるとは限りませんので、ご了承ください。

『市長と“みらい”を語る集い』開催

板橋地区の方を対象に2月8日『市長と“みらい”を語る集い』を開催しました。

会場となった板橋コミュニティセンターには、約40の方が訪れ、今後のつくばみらい市のまちづくりについて、ご提案ご提言をいただきました。

懇談会でご提案、ご提言いただいた内容をお知らせします。

男性 「みらい」を語るということで「みらい」について考えたが「みらい」というのがなかなか描けない。描こうとすればするほど、昔のことが浮かんでくる。私は、こちらに引越してきて、30年近く経つ。買い物や食事などをするにも、市外に出て、市外にお金を落とすとしてきた。市長もおっしゃったように、人口が増えている。みらい



市長に提案・提言を行う参加者



市長と“みらい”を語る片庭市長

平駅前には、住宅やアパートができ、子どもも増え、小学校ができようとしている。いい意味で大きな芽ができています。そういう子どもたち、家族が30年前

「食堂」がオープン

きらくやまふれあいの丘すこやか福祉館に、待ち望まれていた「食堂（お食事処ふたば）」がオープンしました。

オープンの初日の2月1日は、きらくやまふれあいの丘を利用された多くの皆さんが、暖かいうどんやカレーライスなどを注文していました。食堂を利用した水越千江子さんは「お弁当を持ってこなくて済むようになり、楽になった。味も美味しい」と話してくれました。食堂は当面の間、午前11時～3時まで営業しています。



利用者の皆さんと談笑する片庭市長（右端）

と同じようでは「みらい」は描けない。市民が市内でお金を落とせる、消費ができる環境を作らなければならない。「みらい」を築きあげていくため、改善するものは改善し、市を挙げて企業誘致活動を行うべきである。

市内小中学生が活躍

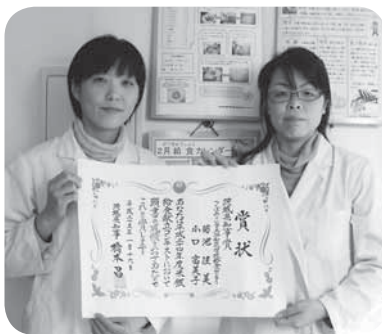
下水道促進週間コンクール

下水道の促進と理解を深めてもらうことを目的に開催された「平成24年度茨城県下水道促進週間コンクール」の書道部門に

谷和原学校給食センター、菊池栄養教諭、小口技師が県知事賞

地場農畜産物の利用促進および米の消費拡大を図ることを目的に開催された「平成24年度米飯給食献立コンテスト」において、

また、標語部門においては、沖田優希さん（小絹中3年）の「環境をきれいに保てる下水道」が入選されました。



県知事賞を受賞した菊池栄養教諭（左）と小口技師（右）

受賞された皆さん（右から沖田さん、中川さん、富山さん）

献立は、三色発芽玄米ごはん、さばの塩麹カレー焼き、大豆と根菜のきんぴら、冬瓜と卵の中華スープ、りんご、牛乳。市内産の米やごぼう、冬瓜などを使用し、魚の嫌いな児童でも食べられるよう、さばはカレー風味に工夫されています。2人は「市内農家の皆さんのおかげで、たくさんのおいしい米産野菜を使うことができました」と話してくれました。

今回考えられた献立は、主食を除き、3月に市内幼稚園・小中学校の給食として出される予定です。楽しみにしていってください。